

レファレンスだより 2014年9月号 No.142

福岡市総合図書館 図書サービス課 相談係 ☎092-852-0632

図書館では、情報を求める利用者に対して、図書館の資料と機能を活用して調査のお手伝いをする「レファレンス・サービス」を提供しています。

法律相談や物品鑑定などお答えできない質問もあります。「レファレンスだより」は、実際に寄せられた質問について、総合図書館が回答した事例の一部を紹介する情報誌です。

■レファレンス受付件数 (2014年6月分)

参考	人文	社会	自然	郷土
64	1,393	356	374	349
国際	国連	こども	ホピュラー	合計
616	56	1,200	1,161	5,569

(開館日 24日 一日平均 232件)

今月の特集!

アジアンパーティ開幕

アジアンパーティの詳細は、2014年9月1日号の市政だよりをご覧ください。

アジアの祭典「アジアマンス」が、昨年「アジアンパーティ」として生まれ変わりました。アジアフォーカス・福岡国際映画祭(9/12~21)、福岡アジア文化賞授賞式(9/18)、アジア太平洋フェスティバル福岡(10/11~13)をはじめ、さまざまなイベントが開催されます。

福岡アジア文化賞 創設 25周年

今年は福岡アジア文化賞創設25周年の年でもあります。栄えある今年の受賞者を紹介します。

大賞	学術研究賞	芸術・文化賞
エスラ・F・ヴォーゲル氏 (84才 アメリカ/社会学) 日本と中国の関係についての長年にわたる研究	アジュマルティ・アスラ (59才 インドネシア/歴史学) インドネシアにおけるイスラーム研究の発展に貢献	ダニー・ユン氏 (70才 香港/演劇) 演出家、劇作家、舞台美術家として多数の舞台作品を発表

※ 2階国際資料のコーナーに、福岡アジア文化賞の歴代受賞者のパネル等を展示しています。

大賞受賞 エスラ・F・ヴォーゲル氏の著作

『現代中国の父 鄧小平 上・下』
日本経済新聞出版社 2013年 289/枚 1階 68

各種書評誌でも話題になりました。
「Japan as No.1?」がアメリカで出版されたのは1979年、以来30数年にわたっての研究の集大成。

『アジア四小竜』(中公文庫)
中央公論社 1993年 閉架書庫

『中国の実験』
日本経済新聞出版社 1991年 閉架書庫

『ジャパン アズ ナンバーワン』
TBS ブリタニカ 1980年 閉架書庫
日本的経営を高く評価、70万部を超えるベストセラー。



こんな質問がありました！

Q：アイナメの語源を知りたい。漢字で書くと「鮎魚女」「鮎並」だが、海の魚なのになぜ川魚の「鮎」の漢字が使われているのか。

■百科辞典、国語辞典で調べる

『世界大百科事典 1 2009年改訂新版 アーアレニ』（平凡社 2009年）2階 C1 R031/㇗
アユのようになわばりをもつので、〈鮎並(アユナミ)〉がなまってアイナメになったといわれるとある。

『日本国語大辞典 第1巻 第2版』（小学館国語辞典編集部／編集 小学館 2000年）2階 C1 R813.1/㇗
語源(1)アユに似て滑らかであることから (2)形がアユに似ていることの意のアユナミ(鮎並)の転か」とある。

■語源辞典も見てみる

『大言海 新編版』（大槻 文彦／著 富山房 1982年）2階 B1 R813.1/㇗

『日本語源広辞典』（増井 金典／著 ミネルヴァ書房 2010年）2階 B1 R813.6/㇗

『語源大辞典』（堀井 令以知／編 東京堂出版 1988年）2階 B1 R813.6/㇗

上記の3冊いずれも、アユに似てなめらか、もしくは「鮎並」の変化か、との記述だった。

『語源辞典 動物編』（吉田 金彦／編著 東京堂出版）2階 B1 R813.6/㇗

この資料には上記の説のほか、鮎のように縄張りを持つ点を指摘する説もあるが、アユがアイヌ語の「アイ=矢」であるとすれば、「アユ並みに矢のように速く泳ぐ魚」ということか、との記述があった。



Q：講演会を開催する時に気をつけることはどんなことか。段取りや準備段階からの注意点が載っている本はないか。

■イベント企画関連から

『「イベント実務」がよくわかる本』（平野 暁臣／著 イースト・プレス 2007年）2階 D20 674.5/㇗
イベントや催事全般について、規模の大小を問わず詳しく解説されている。

『人が集まる!行列ができる!講座、イベントの作り方』（牟田 静香／[著] 講談社 2007年）分館 379/㇗
タイトルやチラシの作り方にもかなりのページを割かれていて、面白い講座を作るポイントがわかる。

『研修会実務ハンドブック』（佐々木 学／著 中央経済社 1995年）閉架書庫

実施1ヶ月前からのスケジュール進行表もついており、具体的でわかりやすく記述されている。

『マスコミ電話帳 2012年版』（宣伝会議書籍編集部／編集 宣伝会議 2012年）2階 C2 R694.65/㇗/㇗㇗
「〇〇について話をしてくれる人」を探したいときに活用できるマスコミ関連の企業、個人の連絡先リスト。

■インターネット

国立国会図書館「レファレンス協同データベース」【<http://crd.ndl.go.jp/reference/>】

「講師を呼んで講演会を開催する場合に気を付けることを知りたい。」という類似の事例があり、同様の資料が紹介されている。



Q：診察を受ける子どもの心理など、医療従事者が子どもの患者に接するのに役立つ資料はないか。

■小児科学の資料から

『子ども学』（小林 登／著 日本評論社 1999年）2階 E9 493.9/㇗

様々な視点から子どもを考える本。子どもの権利についての章の中で、医療現場での子どもの権利として、入院中の教育や親の付き添い・面会の重要性が書かれている。

『子育てハッピーアドバイス知っててよかった小児科の巻』

(吉崎 達郎・明橋 大二／著 1万年堂出版 2009年) 1階ポ65 493.9/㇗

子どもの病気、また病院を受診する際の注意点についても、親たちに向けてわかりやすく書かれている。

■ 図書目録で調べる

『医療問題の本全情報 2003-2012』

(日外アソシエーツ株式会社／編集 日外アソシエーツ 2012年) 2階 C6 R498.03/4

医療問題に関する本を主題別に排列した目録。その中の「小児医療」の項目から、次の本にお求めのような内容が含まれていそうだとわかる。

『医療における子どもの人権』(栃木県弁護士会「医療における子どもの人権を考えるシンポジウム」

実行委員会／編 明石書店 2007年) 2階 E10 498.12/4

診療や入院の際の親の付き添い、病状や治療内容を子ども自身に説明すること等について、子どもへの精神的影響を含めて論じている。

■ インターネット

Webcat Plus [http://webcatplus.nii.ac.jp/]

「病院 子ども 看護」のキーワードに合致する本を検索すると、次の本が見つかる。

『子どもの外来看護：病院・診療所における外来看護の役割をめぐって』

(及川 郁子／監修 へるす出版 2009年)

外来での子どもへの接し方、外来を訪れる子供や家族の心理と倫理的配慮等の内容が含まれるとわかるが、当館には未所蔵。相互貸借で他の図書館から取り寄せは可能。

Q：麻薬の規制等に関する国連の機関はどこか。またどのような資料があるのか知りたい。

■ 所蔵資料から

①②③の各機関の説明記述は下記の資料による。

『国際連合の基礎知識 改訂版』(国際連合広報局／著 八森 充／訳 関西学院大学総合政策学部 2012年)

2階国連 A2

①国連麻薬委員会 (UN Commission on Narcotic Drugs : CND) は、経済社会理事会の機能委員会の一つで、国際的な薬物統制に関する政府間の主要な政策を決定し事業活動の調整を図る。

下記は経済社会理事会公式記録、麻薬委員会の所蔵最新版。(英語)

『Commission on Narcotic Drugs Report on the 57th session ESCOR 2014, suppl. no. 8 (公式記録)』

(United Nations 2014年) 2階国連A8

②国連薬物犯罪事務所 (UN Office on Drugs and Crime : UNODC) は不正薬物と越境組織犯罪に取り組む国連関連機関。報告書作成のための調査と分析、薬物に関する国際条約や、それと整合した国内立法の開発等を行っている。当機関の「世界薬物報告書」は2000年版より所蔵。(英語)

『World drug report 2011』

(United Nations Office on Drugs and Crime United Nations 2011年) 2階国連 A2

③国際麻薬統制委員会 (International Narcotics Control Board: INCB) は、独立した準司法機関で、政府が国際的な薬物統制条約を順守しているかを監視し支援する。国連主催で採択された条約のもと、薬物乱用や不正取引と闘い、医療や学術上目的だけに利用されるよう管理し、国際機関に報告する。

INCBの報告書は1968年版より所蔵。(英語)

『Report of the International Narcotics Control Board for 2010』

(United Nations 2011年) 2階国連 A2

上記報告書の2006年の日本語版。

『国際麻薬統制委員会報告書 2006年』

(国際麻薬統制委員会 国際連合 2007年) 2階国連 A2

■ インターネット

国連薬物犯罪事務所 [http://www.unodc.org/] > 検索ボックスに「World drug report 2014」入力

上記②「World drug report」の最新版、『World drug report 2014』の全文閲覧可能 (英語)

※「2階C1」などと表記しているものは総合図書館の棚番号です。また、「813.1」などと表記しているものは分類番号で、数字の左にRが付いている資料、郷土資料は貸出ができませんので、館内でご利用ください。本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



今月の一冊！

『日本人の事典』（佐藤 方彦／編集 朝倉書店 2003年）2階E2 R469.91/-

本のタイトルが表しているように、日本人について調べる時に使える事典です。日本人といっても人によって違いがあり、皆が必ずしも同じではありませんが、身体的特徴や文化などに関して日本人の特性とされるものがたくさんの表やグラフ入りで解説されています。1章から52章までの章で構成され、その中には「高層建築物と日本人」や「日本人とオフィス」という章もあります。どの本を調べたらよいかわからない時でも日本人に関する事なら、試しにこの事典で目次を確認してみてください。調べ方の糸口が見つかるかもしれません。巻末には編集後記に代えて、読み物風に構成した余録もあるので、索引を引いて調べるのはもちろん、通読しても楽しめる事典になっています。章ごとに参考文献も載っているので、より詳しく調べたい時にも便利です。

使ってみました！⇒“正坐”を調べる！

索引を引くと、日本人の姿勢の章、日本人と住居の章、余録に説明が載っていることがわかります。それらを確認すると、正坐の坐り方は古来から日本人に継承されてきたのではなく、江戸中期の元禄（1688-1703）、享保（1716-1735）頃に一般化したと推測され、それまでの日本人の姿勢は階層や場面や目的に応じて使い分けられながらも、全般的には変化に富んだ自由奔放で動的な下肢形態の姿勢をとっていたと考えられています。正坐が成立した理由としては禅宗の坐法、茶道の影響が考えられることも書かれています。



図書館活用術 ～ 図書館所蔵雑誌・新聞一覧のご案内～

図書館 HP の新着情報に雑誌・新聞の所蔵一覧を掲載しました。（2014年7月末現在の情報です。）総合図書館と各分館で継続的に受け入れている雑誌・新聞のタイトルを確認できるようになっていますので、どうぞご利用ください。



図書館さんぽ

10月、福岡市総合図書館・各分館で全館統一テーマ展示を行います。テーマは「図書館さんぽ」です。図書館の中をのんびり散歩しながら本との出会いを楽しんでいただくのはもちろん、福岡市の図書館を巡って各館の違いを楽しんでいただければと思います。各館それぞれの展示、イベントを実施するほか、おすすめ本を紹介したブックリストの配布も行います。

